

第5章 考 察

第1節 「美濃国」刻印須恵器

本遺跡の第3地点Mトレンチ第IV層から「美濃国」刻印須恵器が1点出土した。これは一辺が2cm程の小破片であるが、坏蓋と思われる。この内面に陽刻の「美」だけ判明できるが、「美」の左下に「国」構えの右上角の一部が認められる。従って、原印の外形が明瞭で、字は太目で比較的書体が整っており、縦に「美濃」とし、その中央左隣に「国」を配するものと思われる。老洞〔高木(1981)〕の刻印形式によるとB-II-4¹⁾と考えられる。「美濃国」刻印須恵器の焼成年代は、檜崎(1981)によれば8世紀第1四半期に位置づけられている。

全国的に特異な「美濃国」刻印須恵器が焼かれた背景を、野村(1981)は、慶雲3年(706)から14年もの長期間在任した笠朝臣麻呂の施策(国名表記「美濃」の公定、美濃不破関の整備、吉蘇路の開通、広域条里の設定、諸郡の分置、当耆郡の醴泉行幸)から述べている。

檜崎(1981)は、野村(1981)をうけて、老洞古窯を笠朝臣麻呂が造らせた官窯とし、この刻印須恵器の配布についても、単なる調査陶器ではなく、麻呂の関係を考慮すべきで、なんらかの国家的規制が働いていたと述べている。

この刻印須恵器の分布は、高木(1981)の時点では老洞第1号窯を除き全国で27箇所37点報告されている。しかし、近年の発掘調査の増加により、筆者が知り得る範囲では、第17・18表のように、美濃須衛古窯跡群の老洞第1号窯や朝倉古窯跡、太田1号窯・蘇原飛鳥町の古窯跡のような生産地4箇所を除き、消費地では、岐阜県内は25箇所40点と最も多数出土し、次に愛知県が8箇所8点と多いが、これは生産地の美濃須衛古窯跡群と木曽川を挟んで接する地域で美濃国と密接な関係を持った地域であるからであろう。三重県は3箇所3点、奈良県は3箇所6点、大阪府は1箇所1点、長野県は3箇所4点、計43箇所62点出土している。他県の状況把握が十分ではないが、近年徐々に増加しつつある。しかし、岐阜県内の出土例の増加は注目される。

大熊(1990)は、「美濃国」刻印須恵器出土地の東限が従来考えられていた美濃加茂市から、神坂峠を越えて長野県飯田市(恒川遺跡)へ拡大し、この恒川遺跡が信濃国伊那郡の郡衙比定地であることから、東山道との関連を想定している。また、岐阜市の城之内遺跡も単に寺院跡だけでなく、東山道との関連から駅家等の公的性格を持った遺跡と考えている。

今回、第17・18表を作成するにあたって調査した結果、県内の出土地の東限は可見市の宮之脇遺跡A地点まで拡大し、東限は長野県飯田市及び松本市南栗遺跡・平田本郷遺跡まで拡大した。従来、西限は奈良県の平城宮跡であったが、藤原京跡や添上郡月ヶ瀬村尾山代遺跡からも

第17表 「美濃国」刻印須恵器出土地一覧(県内)

No.	出 土 地 ・ 遺 跡 名	器形・施印場所	印 文	備考(刻印形式)※1	文献No.
岐 阜 県					
1	岐阜市芥見老洞 老洞1号窯	15器形(細分25器形)		1,290点 施印具 発	4.6.7.
2	“ 芥見間無田 朝倉古窯	無台坏身内底	美濃国	陰刻 A-II-1	4.6.7.
		“	美濃国	陰刻 A-II-3	4.6.7.
		“	美濃国	陰刻 A-II-5	4.6.7.
		“	美濃国	陰刻 A-II類	4.6.7.
		“	美濃	陰刻 A-I-1	4.6.7.
		坏蓋内面	美濃	陰刻 A-I-5	4.6.7.
3	“ 芥見長山	平瓶胴側面	美濃国	陰刻 A-II-1	1.4.6.7.
4	“ 岩滝古宮	坏蓋内面	美濃国	陰刻 A-II-1	6.7.
5	“ 西部境川	無台坏身内底	美濃国	陰刻 A-I類?	6.7.
6	“ 御望4丁目 御望遺跡B地点	有台坏身?外側面	美濃	陰刻 A-I-1?	※6
7	“ 秋沢	無台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-5	※6
8	“ 長良真正町3丁目 城之内遺跡(市)	無台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-1	発 5.8.
9	“ 長良西後町 城之内遺跡(県)	無台坏身内底	美濃国	陽刻 B-II-2	発 5.
		“	美濃	陰刻 A-I-1	発 5.
		“	美濃	陰刻 A-I-1	発 5.
		“	美濃国	陰刻 A-II-2	発 5.
10	各務原市須衛町	器形不明	美濃国	陰刻 A-II-1	4.6.7.
11	“ 須衛町字太田 太田1号窯	無台坏内底	美濃	陰刻 A-I類 発	※2
12	“ 蘇原ノギ山	有台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-6	4.6.
		坏蓋内面	美濃国	陰刻 A-II-5	4.6.
13	“ 蘇原飛鳥町(窯跡)	無台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-6	4.6.
14	“ 蘇原村雨町 村雨町遺跡	付台長頸瓶胴部外面	美濃	窠書(A-I-6')※4	1.2.4.6.7.
15	“ 那加前洞新町 前洞遺跡A地点	坏身外側面	美濃国	陰刻 A-II類	発 5.8.
16	“ 三井町字寺浦 三井遺跡	坏蓋外面	美濃	陰刻 A-	発 3.4.
		壺肩部外面	美濃国	陰刻 A-II類	発 3.4.
		坏蓋外面	美濃	陰刻(窠書?※7)発	3.4.
		坏身内底	…濃国	陰刻(窠書?※7)発	3.4.
		坏身内底	美…	陰刻 A-	発 3.4.
		坏蓋外面	…濃	陰刻 A-	発 3.4.
		坏身内底	…濃	陽刻 B-	発 3.4.
		坏身外底	…国	陽刻 B-II類	発 3.4.
17	関市東田原	坏蓋内面	美濃国	陰刻 A-II-2	1.4.6.
18	“ 下有知字重竹 重竹遺跡B地点	無台坏身	…濃	陰刻 A-	発 10.
19	“ 下有知字檀木洞 檀之木洞遺跡	無台坏身	美濃	陰刻 A-I類	発 5. ※5
20	美濃加茂市太田町西町 トドメキ古墳周辺	大型平瓶頸部外面	美濃	陰刻 A-I-1	4.6.9.
21	“ 田島町4丁目字柳原 仲迫間遺跡	坏蓋内面?	美…	陽刻 B-II-4	発 本遺跡
22	“ 蜂屋町上蜂屋 尾崎遺跡	坏蓋ツマミ上面	美濃国	窠書 C-II類	発 3.4.
		有台坏身内底	美濃	陰刻 A-	発 3.4.
23	可児市川合字宮之脇 宮之脇遺跡A地点	有台坏身内底	美濃国	陰刻 A-II類	発 5.8.
24	本巣郡真正町真桑	無台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-5	4.6.7.
25	大垣市林町	無台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-1	4.6.7.
26	“ 南一色町若林紡績内 南一色遺跡	無台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-1	4.6.7.
27	“ 荒尾町	小瓶胴側面	美濃国	陰刻 A-II-2	4.6.
28	“ 青野町 美濃国分寺跡(回廊跡) (鐘楼跡)	坏蓋内面	美濃国	陰刻 A-II-5	発 1.4.6.7.
		無台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-1	発 1.4.6.7.
		瓶胴外側面	美濃国	陰刻 A-	1.6.7.
29	不破郡関ヶ原町野上字天楽	坏蓋内面	美濃国	陰刻 A-II-1	1.4.6.
		坏蓋か?	美濃	陰刻 A-I類?	4.6.

出土していることが判った。また、大阪府守口市大庭北遺跡まで拡大した。

本遺跡から出土した陽刻のもの(老洞のB類)は、老洞第1号窯で1,290点中47点²³⁾しか出土していない。他の遺跡では、各務原市の三井遺跡2点、岐阜市の城之内遺跡(県)1点、愛知県江南市で1点、計4点出土しているだけで、本遺跡を含めると5例目となる。この陽刻の刻印須恵器の生産量及び出土例が少ないことは、老洞の報告書や大熊(1990)が述べているように、配布・使用に際しての規制が存在したのか、今後の資料の増加を待ちながら検討しなければならない。

美濃加茂市域では、刻印須恵器は太田町西町トドメキ古墳付近[神宮東遺跡か? - 吉田(1979)]で採取された須恵器の平瓶が従来から知られていたが、昨年度発掘調査された蜂屋町上蜂屋の尾崎遺跡で2点出土しており、本遺跡のものを入れると4点目である。

吉田(1980)は、加茂郡に式内社9座有り、多くの古代瓦を出土する遺跡が多いこと等から、坂祝町酒倉字雲埋の雲埋遺跡を中心とした美濃加茂市太田地区西方5km以内に加茂県主集团の本拠地を想定している。この関連で太田町西町トドメキ古墳付近出土の刻印須恵器をとらえ、

第18表 「美濃国」刻印須恵器出土地一覧(県外)

No.	出土地・遺跡名	器形・施印場所	印文	備考(刻印形式)※1	文献No.
愛知県					
30	江南市尾崎字桐野	坏蓋内面	美濃国	陽刻 B-II-7	1, 4, 6, 7.
31	“ 赤童子字東山	有台坏身内底	美濃国	陰刻 A-II-1	1, 4, 6, 7.
32	“ 後飛保字新開	無台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-3	4, 6.
33	“ 宮田字貝売	無台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-4	4, 6.
34	一宮市浅井町尾関字奥屋敷	台付長頸瓶頸部外面	美濃	陰刻 A-I-2	1, 4, 6, 7.
35	“ 高田字前田	無台坏身内底	美濃国	陰刻 A-II-2	1, 4, 6, 7.
36	葉栗郡木曾川町玉ノ井先木曾川中洲	無台坏身内底	美濃国	陰刻 A-II-1	4, 6, 7.
37	尾西市起字堤町先木曾川中洲	台付長頸瓶頸部外面	美濃	陰刻 A-I-6	4, 6, 7.
長野県					
38	飯田市座光寺 恒川遺跡	坏頸口縁部外面	美濃	陰刻 A-I類	発 5, 11.
三重県					
39	多気郡明和町金剛坂字竜ノ口 斎宮跡?	脰胴部外側面	美濃	陰刻 A-I-6	1, 4, 6, 7.
40	鳥羽市安楽町 賛遺跡	無台坏身内底	美濃	陰刻 A-I-1?	4, 6, 7.
奈良県					
41	奈良市佐紀町 平城宮跡	有台坏身外底	美濃	陰刻 A-I-6	発 4, 6, 7.
		坏蓋内面	美濃	陰刻 A-I-1	発 4, 6, 7.
	(東院)	有台坏身外側面	美濃	陰刻 A-I-1	発 4, 6, 7.

※この表は、高木(1981)を基に、文献(1~11)や下記の諸氏の教示により作成したものである。(1994.3月現在)

- 発：発掘調査によるもの。
 ※1：高木(1981)による形式分類である。
 ※2：西村勝弘氏(各務原市埋文センター)の教示による。いずれもまだ未報告である。
 ※3：佐野康雄氏(当センター)に実見させていただいた。
 ※4：高木(1981)は陰刻に分類しているが、岩野(1972)は施書としている。市史編纂「宇野(1983)」の際に実見したところ、施書きであった。
 ※5：篠原英政氏(関市教委)の教示による。榎之木洞遺跡はまだ未報告である。
 ※6：現在実施されている「岐阜市遺跡詳細分布調査」によるもので、内堀信雄氏(岐阜市教委)の教示による。
 ※7：大江(1981・1983)によれば陰刻としているが、写真等から見ると、施書きの可能性がある。
 ※8：川合遺跡群発掘調査成果報告会の資料及び、長瀬治義氏(可児市教委)の教示による。

中央勢力と加茂県主勢力との結びつき、東山道やその支路の飛驒路の開発などから、駅家・郡衙の位置についても言及している。

平成4年度に当センターが調査した尾崎遺跡では、弥生時代中期から奈良時代・中世にかけての住居跡が多数検出され、そこから2点の刻印須恵器が出土している。今年度市教委が隣接する地区を発掘調査しているが、そこからも多くの住居跡が検出されている。従って、尾崎遺跡は大集落跡と考えられる。また、本遺跡では住居跡などの遺構は全く検出できなかったが、遺物を見ると弥生土器・須恵器・土師器・山茶碗などほとんど小破片であるが大量に出土していることや刻印須恵器が1点出土していることから、周辺一特に第3地点が属する上位段丘のL2面に集落跡が存在する可能性が指摘できる。

従って、「美濃国」刻印須恵器は、橋崎(1981)が述べている「国家的な規制が働いている」ものとの考え方や「時々における記念すべき事業に際して使用した」国衙との公的関係を持つものとの考え方によれば、本遺跡は吉田(1980)の言う加茂県主集団の本拠地からは離れているため、本遺跡の周辺には加茂郡内の何れかの郷³⁾ないし東山道⁴⁾や飛驒路⁵⁾に関する集落遺跡の存在が考えられる。

(宇野 治幸)

【註】

1) 高木(1981)の形式分類によれば、

A類は押印された器表の字面が凹むもの：陰刻、

B類は反対に凹印を用い字面が突出するもの：陽刻、

C類は篋書のもの。

また、「美濃」をI類、「美濃国」をII類とし、両者の組合せによって6類の分類をしている。

2) 老洞古窯では、B-II類は47点中43点占める。このうちB-II-1は18点、B-II-4は14点である。

3) 佐野(1980)では、『倭名抄』によれば、加茂郡には11の郷と1つの駅家があり、このうち7郷(美和・生部・井門・小山・日理・志麻・米田)を美濃加茂市域にあてているが、いずれも比定地は明瞭ではない。

4) 各務駅から可見駅までの東山道の経路については、水野(1971)では各務郡の鶴沼で木曾川を渡り、天山・善師野を経て可見郡に入った説と、木曾川の右岸の峠を越えて美濃加茂市の太田に至り、現在の可見市土田の渡で木曾川を越えたとの説を載せている。また、佐野(1980)は他に考古学的考察からとして方県駅からほぼ東に進み、現在の関市南部から郷部山の北を通して太田に至り、木曾川を越して土田に至る説と、美濃加茂市の市域を東に進み、森山・川合付近より飛驒川を渡り、下米田・牧野を経て兼山付近で木曾川を渡るという説を紹介している。現在では定説はない。

5) 飛驒路については、『延喜式』に武義駅・加茂駅などが記載されている。水野(1971)によると、武義駅は関市下有知から美濃市にかけての有知郷、加茂駅は美濃加茂市の太田という説もあるが川辺町の下麻生(加茂郡中家郷に比定)付近か七宗町の神淵あたりを想定している。方県駅を長良とすれば、長良志段味あるいは古津で東山道の本路と別れ、東北に進んで武義駅に至り、加茂駅を通して石浦駅に至る経路の諸説を紹介しているが、いずれも定説が無く、武義駅から加茂駅・下留駅への経路も不明である。

〔引用・参考文献〕（執筆者の前の番号は、第17・18表の文献番号である。）

- 16 井上義光 1986「宇陀地方の遺跡調査 VI（北部）尾山代遺跡」『奈良県遺跡調査概報—第二分冊1985年度—奈良県橿原考古学研究所
- 1 岩野見司 1972「『美濃国』施印須恵器について」『考古学雑誌』第52巻3号
- 2 宇野治幸 1983「第3章 第3節 古代の集落跡」『各務原市史 考古・民俗編 考古』各務原市
- 3 大江 命他 1981『一般国道21号那加バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—三井遺跡・六軒遺跡—』各務原市教育委員会
- 4 大江 命 1983「第1章 第2節 歴史時代の各務原」『各務原市史 考古・民俗編 考古』各務原市
- 5 大熊厚志 1990『城之内遺跡』岐阜県教育委員会
- 17 小平和夫 1990「第3章 第2節 古代の遺物 1 古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書7—松本市内 その4 南栗道遺跡—（財）長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会
- 15 斎宮歴史博物館 1989『斎宮跡発掘資料選』
 - ・佐野一彦 1980「古代・中世 第1章～第3章」『美濃加茂市史 通史編 美濃加茂市
- 6 高木 洋 1981「第V章 4 美濃国刻印須恵器」『老洞古窯跡群発掘調査報告書』岐阜市教育委員会
- 14 辻本 武 1986『大庭北遺跡発掘調査概要・II』大阪府教育委員会
- 7 橋崎彰一 1979「第2部 第4節 歴史時代 2 古窯跡」『岐阜市史 史料編 考古・文化財』岐阜市
- ・橋崎彰一 1981「第IX章 結語」『老洞古窯跡群発掘調査報告書』岐阜市教育委員会
- 12 奈良国立文化財研究所 1986「藤原京左京六条三坊」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報16』奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
- 13 名古屋市博物館 1994『特別展 発掘された東海の古代—律令制下の国々—
- 8 堀 正人 1990「第5章 第2節 土器類 5 須恵器」『城之内遺跡』岐阜市教育委員会
- ・野村忠夫 1981「第VIII章 文献的考察 老洞古窯跡群の歴史的背景」『老洞古窯跡群発掘調査報告書』岐阜市教育委員会
- ・水野柳太郎 1971「第12章 古代の交通」『岐阜県史 通史編 古代』岐阜県
- 9 吉田英敏 1980「原始・古代 第5章 第2節 美濃加茂市周辺の遺跡」『美濃加茂市史 通史編』美濃加茂市
- 10 吉田英敏 1984「B地点 II 古代の遺構と遺物 5 考察」『重竹遺跡—その3—』関市教育委員会
- 11 飯田市教育委員会 1988『恒川遺跡（田中・倉垣外地跡）』